【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成21年8月13日(2009.8.13)

【公表番号】特表2009-500025(P2009-500025A)
【公表日】平成21年1月8日(2009.1.8)
【年通号数】公開・登録公報2009-001
【出願番号】特願2008-519849(P2008-519849)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｎ　15/09　(2006.01)
Ｃ１２Ｐ　21/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　15/00　A
Ｃ１２Ｐ　21/00　C

【手続補正書】
【提出日】平成21年6月29日(2009.6.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
翻訳系により、in vitroでタンパク質を合成するための方法において、タンパク質合成を、リボソーム因子ＬｅｐＡの存在下で実施することを特徴とする、翻訳系により、in vitroでタンパク質を合成するための方法。
【請求項２】
翻訳系が、（ａ）タンパク質をコードする翻訳可能なＲＮＡ;および（ｂ）細胞翻訳装置の成分を含む細胞不含の調製物を含み、特に、その際、翻訳系が、原核細胞系である、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
細胞不含の調製物が細胞エクストラクト、例えば原核細胞、特にＥ．Ｃｏｌｉ細胞由来のエクストラクト、又は細胞不含の調製物が細胞ライセートである、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項４】
系が、結合した転写／翻訳系であり、特に、その際、転写／翻訳系が、（ａ１）発現制御配列に対して操作的に結合された合成すべきタンパク質をコードする核酸；（ａ２）核酸から翻訳可能なＲＮＡを製造する能力を有するポリメラーゼおよび（ｂ）細胞翻訳装置の成分を含有する細胞不含の調整物を含む、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項５】
発現制御配列が、異種プロモーター、たとえばＴ７または関連するプロモーターであり、かつ、ポリメラーゼが異種ポリメラーゼ、たとえばＴ７　ＲＮＡポリメラーゼまたは関連するＲＮＡポリメラーゼであるか、あるいは、発現制御配列が、固有の細胞性プロモーターであり、かつ、ポリメラーゼが、固有の細胞ＤＮＡ－依存型ポリメラーゼである、請求項４に記載の方法。
【請求項６】
合成を、原核細胞ＬｅｐＡの存在下で実施し、特に、その際、ＬｅｐＡが、Ｅ．Ｃｏｌｉ由来である、請求項１から５までのいずれか１項に記載の方法。
【請求項７】

ＬｅｐＡが、系中に存在する７０Ｓリボソームサブユニットに対して、約０．０５：１～約０．６：１のモル比で存在する、請求項１から６までのいずれか１項に記載の方法。

【請求項８】

添加されたリボソーム因子ＬｅｐＡを含み、その際、特に、系が、（ａ）発現制御配列に対して操作的に結合した合成すべきタンパク質をコードする翻訳可能なＲＮＡ；（ｂ）細胞翻訳装置の成分を含む細胞不含の調製物、および（ｃ）添加されたリボソーム因子ＬｅｐＡを含有し、その際、特に、系が、結合した転写／翻訳系である、ｉｎ vitro翻訳系。

【請求項９】

添加されたリボソーム因子ＬｅｐＡを含む、タンパク質のin vitro合成のための試薬組成物またはキット。

【請求項１０】

タンパク質合成の精度を高めるための、特に、in vitro系における、特に、in vitroの結合した転写／翻訳系における、リボソーム因子ＬｅｐＡの使用。